



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
電話 03-5315-0941

2024年7月20日

発行人 加藤誠 編集人 湯ノ目亜矢子

第764号

毎月1回20日発行/一部20円
(組合員の購読料は、組合費に含む)



JR東労組ホームページは
←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

夏季輸送 安全を最優先に! 健康に留意して乗り切っていきましょう!



現実を正しく掴み出し、仲間と語り行動していきましょう!

「8・8集会」に結集しよう!

JR東労組は、国鉄改革の翌年の1988年8月8日に、「力あわせ夢語る8・8大集会」を開催しました。それ以降、「政策フォーラム」の名称で開催し、JR東労組としての政策提言を行ってきました。

第一回目の「力あわせ夢語る8・8大集会」で、当時の松崎委員長は講演の中で「政策」とは「会社を良くしていくプラン」と打ち出しています。そして、「良い会社をつくる」ということは、社員が恵まれているということでもあります。社員が幸せ感をもち、良い会社だということはないと思いません。「恵まれた生活があって初めてこの会社は社員のための会社であり、そのことを通じてこの会社は社会に対する義務をまっとうできるのではないかと思います」と述べています。そのことは、今も変わらないことであり、私たちは安全と健康を基礎にした労働条件の向上・改善をつくり出しています。

しかし、職場現実はどうでしょうか。6月18日から19日に開催した第43回定期大会では、29名の代議員から活発な発言を受けて教訓や課題を明確にする一方、様々な厳しい職場現実を突きつけられました。繰り返される事故・事象、異常な職場管理、組織再編などの各種会社施策による弊害ともいえる要員不足、融合と連携、企画業務等によって休憩時間もままならない厳しい勤務を強いられ体調不良になる人がいる現実、職場の努力に報いない賃上げや夏季手当も含めて、納得感も幸せ感も感じられない状況となっています。

また、24春闘において低額回答のうえ、格差ペア回答をした会社の狙いを明らかにしなければなりません。なぜなら、成果型・評価型の人事・賃金制度では安全は守れないからです。

利益最優先、利益至上主義の会社では、安全も健康も生活も守ることはできません、決して良い会社ではありません。現に、新幹線でのトラブルが続きます。旅客からも安全に対して心配の声があげられている始末です。自分や仲間、乗客の命を守るために、私たちは何をすべきかを改めて真剣に考えなければならず、いま職場で起きていっていることを正しく掴み出していく必要があります。

第43回定期大会 (2024.6.18～19)以降

3名加入!

JR東労組に加入して、仲間と共に
問題解決に向けて取り組みましょう!

8月8日に開催する今回の集会では、各職場での様々なたまたかの教訓や課題を共有して、議論を行っていきます。そのことにより「安全・健康・ゆとり」をつくり出していくことや、命と雇用を守っていくことはできません。だからこそ、JR東労組の仲間と共に、議論・検証し、職場現実に基づいた政策提言や事象に対する対策づくり、課題に対する団体交渉等を行い、私たちにとっての「良い会社」をつくり出しましょう!

命と雇用と利益を守るために「安全・健康・ゆとり」ある職場をつくり出し、仲間とともに経営姿勢に立ち向かう8・8集会(仮称)

日時 8月8日(木)12時30分 場所 コルソホール



日銀は7月16日、2014年1～6月に行われた金融政策決定会

合の議事録を公表した。2014年4月と言えば消費税が5%から8%に引き上がった年で、増税によって個人消費は大きく冷え込んだ。日銀にとって、個人消費を回復させるには賃上げや所得増が頼みの綱だったことが浮き彫りとなった▼軌を一にして、政府が各企業に対して積極的に賃上げを要請するなど、政府の介入による官製春闘が始まった。以降、日銀は2%の物価目標を早期に達成する見通しを堅持したが、異次元緩和を10年超も続けることを余儀なくされた▼この10年、我々労働者や民衆はじわじわと上昇する物価に実質賃金が追いつかない中で「真綿で首を絞める」状況下での生活を余儀なくされている。労働者・民衆は、政府・白銀の政策に騙されてはいけません▼国内外にも目を向けると、少子高齢化の中で日本の借金は膨らみ続け、戦争の出来る国として着々と法整備が進められている。この現実から逃げることはできない▼現実には立ち向かい、組織の強化・拡大を軸に安心して暮らせる社会の実現に向け、たまたかの歩を雄々しく突き進もう! (S・S)